一、支出金額　八九、二四五円

内譯

六三、二〇円　會誌第十號四五〇部印刷代
一六、四五　往復はがき四七〇枚印刷代
五、〇〇〇　會誌發送料
四、五九五　雜費

一、差引殘高　五五、八〇円

右之通り相違無之候也

大正四年三月十日

文科會々計係

會費領收

明治四十四、大正元、二、三年度分

法貴すゑ　橋川篤子　蒔田靜　小穴みん　森岡たけ　蛭子つま

大正元、二、三年度分

橋本きを壽　澤ため　芦川春子　幸田龍子

大正二、三年度分

中西ちよ　由井長

大正元年度分

山崎かつ子

大正二年度分

河口せい　杉山もと

大正三年度分

千葉安良　石川都　森かよ　島村ちか　堺さき　筒井たか
東條はる　大岩のぶ　直江かめよ　原しげの　西脇りか　梅野はつ
塘みどり　菊田豊　井上いつ　清水俊尾　川口琴　平野さと
半田たま　伊地知あぐり　青山はな　加賀山貞　樫部鳥羽　山下サイ
水民芳　鈴木しやう　飯島貞　栗崎とき　管野けい　林はる
大平ふじゑ　阿部ツル　岡田ひさ

大正四年度分

島津みち　稲垣のぶ　伊藤うめ　石川シゲ　林たれ　富津美穗
小倉千年　小野あつ　大西シヅ　加藤あや　金谷京　多田しめよ
中村イト　中山タエ　武藤キヨシ　安永ミチ　國府富美　江藤馨
齋藤加津　水谷年惠　宮崎かつ枝　關みさを　飯沼檀　市瀨ちひろ
鳥澤しげ　豊島とも　金森かう　竹本せい　國枝琴　窪田ケイ
松橋やす　小泉イク　越前ツタ　白神美子　梶原千代

會員動靜

一、入會者（一一一名）

阿部ツル　天羽生イト　淺田信
伊藤ちか　伊地知さつ　井上いつ
奥田久　岡本須ゑ　大岩のぶ
川上つね　加藤じう　菊田豊
窪井ツネノ　小林いゑ　堺さき
篠田もと　清水くに子　須藤ちよう
田邊きり　田邊秀　田中たきの
東條春　内藤まさよ　長澤栞
中川あや　西脇りか　錦織かめ
遠水信　平川淑　廣間ひで
松村とみ　三浦くに　三宅ます
百瀬ゑい　馬上はじめ　野澤みさり
山根壽々子　山邊ふみ　由井長
伊藤うめ　石川しげ　林たね
大西シヅ　加藤あや　金谷京
武藤キヨシ　安永ミチ　國府富美
宮崎かつ枝　關みさを　飯沼檀
梶原千代　金森かう　竹本せい
小泉イク　越前ツタ　白神美子

一、退會者（八名）

飯田孝　蛭子つま　白井その
森岡たけ　岡田ひさ　有木ふく　岩崎珠子　飯岡とみ
石澤けん　江端よう　岡崎なみ
小野清　太田みつ　川口琴
北澤あきの　黒山トク　黒石つや
齋藤彌生　島村ちか　進藤ちか
須部下枝　鈴木はる　立山くま
田中その　塘光　梅野はつ
中西ちよ　永井みつ　直江かめよ
橋本ゆき　橋本とし子　原しげの
樋口ふじ　松元晴子　松原みち
水民芳　武藤じつ　森かよ
山下サイ　山本トシ　八木恭子
脇田ふざ　瀬川けい　瀬尾ゑい
富澤美穂　小倉千年　小野あつ
多田しめよ　中村イト　中山タエ
江藤馨　齋藤加津　水谷年惠
市瀬ちひろ　鳥澤しげ　豊島とも
國枝琴　窪田ケイ　松橋やす
鶴本ヨネ　橋川篤子　平野さと

幼稚園日記
蕊の花

第一日

さあ今日からは愈新しい生活に入るのである。かう思つて○の組の室に入つた。先生と先着のAはもう襷がけで働いて居られる。やがて少しづゝ子供が「先生お早うございます」といつて入つて來る。みんな小さいジエントルマンであり小さいレデーである。小さい手でお互にエプロンをかけかへあつて居る樣子が涙の出る程いぢらしい。それがすむと白くつる〳〵に光つて居るお湯の鐵管に小さい腰を下ろして不思議さうに私達の顏を眺めて居る。別離遭逢、小さい胸にはどんなに印せられて居る事であらう。闘引きで受持の机がきまつた。小さい椅子、低い机お伽話に見る小人國に來た樣な氣がする。

紹介がすんだ、先生はオルガンをお引きになると小さい靴が遊戯室まで微妙に動いて行く。こゝで會集がある。幼稚園は音樂の國である、室に歸つて又三つ四つ歌がうたはれた。「桃太郎さんのお話をしませうね、昔々お爺さんとお婆さんが……」先生がお話しかけになるとお隣の室から「今は山坂今は濱」ゆるやかな音が流れて來る。振動數の同じ音差の樣に子供の聲帶はすぐに共鳴した。先生は思ひかへしてオルガンにお座りになつた。

一人の子がそつと私を顧みて「先生の名は何といふの、僕忘れちやつた。僕のうちはね先生知つてる？」「いゝえ」「□□亭よ、西洋お料理」かういつて又向ふを向いた。

外では鬼ごつこと隱れん坊、隨分疲らされて了つた。

「○ノ組おはいり〳〵〳〵」。

二三人の子が妙な節でいふとみんなが雷同する。お手を洗つて御飯を頂くのである。私は全く時間のない國に來た。あまりに時間に囚はれて居た私は何だかぼんやりした樣だ。原人の生活をこゝに見出した樣な氣がする、そして自分だけが異分子でお客樣に來た樣な氣がする。お辨當は子供にとつてどんなに嬉しい事であらう。かあいゝ籠の中には小さいお茶碗、お箸、布巾、お辨當など奇麗に入つて居る。お母樣は最もお辨當に注意してやらねばならぬといふ事がしみ〴〵思はれるのであつた。